

Advance

#うまくいかない時間こそ、大切な一歩でした
～7年生、この1年の軌跡～

いよいよ、7年生としての1年間が終わろうとしています。
この1年を振り返ると、子どもたちの中に確かに芽生え、育ってきたものがあると強く感じています。それは、どんな力だったのか。
今回は、その成長を象徴する3つの場面を通して、この1年間を振り返らせていただきます。

(1) スキー宿泊学習で見た「支える力・一歩前に出る勇氣」

スキー宿泊学習では、5・6年生との共同生活という慣れない環境の中で、スキー技術の向上だけでなく、一人一人が葛藤する場面が多くありました。どう関わればよいのか迷う…。そんな時間の中で、子どもたちは何を選ぶのか。印象的だったのは、5・6年生を支えようとする7年生の姿でした。「大丈夫?」「こうしてみよう」その一言が安心へとつながり、場の空気を変えていきました。

自分のことで精一杯になりがちな状況の中でも、周りに目を向け、そっと手を差し出す。その姿は、この1年で育まれてきた関係性そのものだったと感じています。「できる・できない」ではなく、「一緒に乗り越えようとする」とそのものに価値がある。そのことを、子どもたちは体感していました。

(2) Center棟階段開通式で見た「大切にできる心・オーナーシップ」

新しくできたCenter棟の階段開通式。理事長の「大切に使ってほしい」というメッセージを受け、生徒代表の言葉には、「自分たちの学校を、自分たちで守っていく」という意識が確かに表れていました。

その後のある日。階段を駆け上がろうとした下級生に、7年生が「ゆっくり歩いていこう」と声をかける姿がありました。

誰かに言われたからではなく、自分たちで気づき、自分たちで選んだ行動です。与えられたものをただ使う側から、「自分たちのもの」として大切に「する」側へ。その変化は目立つものではありませんが、確かに子どもたちの内側から生まれてきていると感じています。

7年生最後の学活のお楽しみは、
桜子さんが企画したイントロクイズ!
大いに盛り上がりました。Thanks 🙌



(3) 授業・プロジェクトの中で見た「問い続ける姿」

日々の授業やプロジェクトの中では、最初からうまくいくことよりも、「うまくいかないこと」の方が多くありました。

思ったような結果が出ない。考えがまとまらない。仲間と意見がかみ合わない。そんな中で、子どもたちは立ち止まりながらも、問い直していました。「なぜだろう?」「もう1回やってみよう」その姿が、少しずつ増えていきました。この「問い続ける力」こそが、これからの学びを支える土台になると感じています。

これら3つの場面に共通しているのは、「うまくいかない時間」の中で、もう一歩踏み出そうとする姿です。

うまくいかないからこそ、考える。

うまくいかないからこそ、仲間と関わる。

そして、次の一歩が生まれる。

この1年間で子どもたちは、正解を求めるだけでなく、自分なりに問い、仲間とともに進む力を確実に身につけてきました。

それは一人ですることではありません。仲間の存在、そしてご家庭での温かい支えがあってこそ育まれてきたものです。日々の関わりに、改めて深く感謝申し上げます。

まもなく、子どもたちは8年生へと進級します。これからは、より一層「自分で考え、選び、行動する」場面が増えていきます。だからこそ、
・問いを持ち続けること ・仲間とともに考え続けること
を大切にしてほしいと願っています。

この1年で育んできた力を土台に、それぞれのペースで次のステージへと、歩を進めていくことを楽しみにしています。

そして、これから先もきっと、うまくいかない時間に出会うことがあると思います。そのとき、子どもたちはどんな一歩を選ぶのでしょうか。その一歩こそが、次の成長へとつながっていくと、私は信じています。

保護者の皆さまにおかれましては、この1年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

[聴くClassNewsletterはこちら](#)

We will value "Purpose" and "Ownership" for you